

# 博多の風

F u - Z i n

みんなが喜ぶ事を  
自分の喜びにしたい。

■風人来人

福田一男さん  
NPO博多の風 事務局長  
土居流 大乘寺前町

■第6回 探訪!! 博多祇園山笠追い山コース  
■はかたの町クリーン作戦開催

第18回

# NPO博多の風

# フォーラム

報告

# 第16号

平成19年10月発行

# 第18回

●平成19年4月15日(日)

# NPO博多の風 フォーラム開催!

第一部では事務局だよりとして平成19年度の活動計画が発表され「追い山コース探訪」「出版」「広報」の3部会の世話人・担当幹事から活動内容の詳細が説明されました。休憩を挟み、第二部として中村信喬さんをお招きし、博多よもやま噺として講演になりました。

山笠には土居流の西方寺前町から参加していますが、もともとは恵比須流の中堅町の所に家がありました。人形師としては祖父の代から数えて私で3代目ですが、お爺ちゃんはかなり放蕩家で、家で仕事はせずに遊郭の中で彫刻をしていたそうです。本人はお酒



を飲めなかったのですが、羊羹とお茶を飲みながら仲間とどんちゃん騒ぎをして、お金がなくなったら彫刻をするような人だったそうです。お爺さんは宵越しの金は持たないという博多職人だったからしく、彫刻料は明治時代のお金で2000円ぐらいで、今のお金に換算すると大きな家が立つぐらいだったそうです。商売は3代目でつぶれるとかよく言われますが、うちはようやく3代続いているとして、約100年ぐらい続いている事になります。私の息子も今年で21歳になりま

して、東京の大学で3年生になっています。今年は土居流が一番山笠という事もありますので「学校の授業を辞めてでも帰ってくる」と言っています。「いずれは、人形師を継ぐ」と言ってくれていますので、人形師も4代目までは続く事になりそうです。

食べ物や着る物をつくったりする人や、家を建てたりするような人のように、必ず人が必要とするものと違い、人形というものは実はこの世で一番いらぬものとも言われています。工芸というものは、いわゆる「用の美」と言われ、用いられて初めて美をなすものです。「使うことにはない人形も用の美の世界にはいるのか?」というような論争もひところありました。良い器を使って物を食べたり、良い服を着ると幸せな気分になります。人形の場合は用いなくても、それを見ることが、夢や希望を与える事ができるところから、人形は工芸の中に入っています。

画・骨董・お茶・お華などに加えて、小説・文芸・一般に精通しないと人形は分からない」と言われました。人形というものは人の形をしています。人間そのものの理解に加えて、着物や簪も含めて人が使うもの全てを分かっている、だめという事です。しかし家が没落すると、悲しいことにまず最初に人形が売られるそうです。ある意味、この世で一番いらぬものをつくってご飯をたべさせてもらっている。こんなありがたいことはないです。

若い頃は「自分の力でモノを見て、自分の力で作っている」と思いがちです。父は年取っているが、自分は若いので「父よりキレイに磨ける」とか「細かい模様付けもできる」といった技術的なことに執着がちです。しかしどんな人でも、50年もやれば上手になるもので、技術というものはやれば誰にでもできるようなものなのです。よくデザインや美術の世界で「感性」が必要だと言われますが「感性」も学べば身につくものです。本当に必要な事は「この世に生まれた役目がある」ということが、分かるかどうかが大切だと私は思います。私は父が2代目の人形師で母は人形師の娘です。私は「この世に人形を作るべくして生まれてきた」と自分は思っていました。「人形によつて人に夢や希望を与えなければならぬ」とこれが私の使命だと思っています。父が亡くなる前に、「自分が作っていると思うな、自分の目で見ていると思うな」と言われましたが、当時はまったく分からなかったんですが、父がなくなつて15年ぐらい経つてから、なん



となくこういう事かなと分かるようになってきました。この時代、伝統工芸はニュースソースになりやすいので、いろんな新聞やテレビに取り上げていただきます。少ない世界ですから、ちょっと賞をとったりするとすぐはやし立てられます。しかし、ちやほやされるのは一瞬の事で、むしろ生涯を通じてその人が何をしたか、何を生み出したかというものが大切だと思います。先生をしている学校の入校式で、挨拶をする時に「ようこそいらしやいました。神より選ばれしもの道に二歩踏み込んで」という言葉を送ります。これは、私が考えた言葉ではなくて、偉大な彫刻家のミケランジェロの言葉です。明治以降の芸術家は「芸術は自分がよければ、人が評価しなくても良い」という言い方をしていますが、私はそうではないと思っています。ミケランジェロもメデイチ家というスポンサーがいて「こういうものを作つて欲しい、こういう祈りの対象として作つて欲しい」と言われて作っている訳で自分勝手に作っているものではないです。アートとして作っているわけではないが、その結果、今でも残るすばらしい彫刻をつくっている。土くれもその辺にほつた

らかしておいたら、ただの土くれです。木でも朽ちておちていたらそのまま土になつていく、それに命をあたえて、モノを生み出して、人が感動するものが作れば、ずっと永遠に残るんです。それがこの手で出来るんです。「この世にモノを生み出すという事がどんなに素晴らしい事か」という事です。

後輩達の中には、経済人として1分1秒にお金を追いかけて商売をしている人達もいます。そんな人たちに私は「お金はお足(あし)なんだから追いかけてたりするもんじゃない」と言っています。江戸時代の時代劇などで「お足は幾ら?」と言っていますが、「お金の事を「お足」といいます。「お足」なので追いかければ逃げます。ところが不思議なもので、人の為にやっていることむこうからやってきます。お金じゃないんです。

毎年、年に1回か2回、私に小さな人形を頼む人がいます。若いときからずっと支援してくれていて、その方にいろんな形の人形を作りました。ある時にはマッチ



棒くらいの頭に目鼻口を彫つて髪をつけた人形に十二単をきせて雛人形を作つてあげたり、木彫で雛人形をつくらしたりしました。今年、誕生日に間に合わなくて「早くしなきゃいけないな」と思っていたときに、ふと仕事場を見ると、友人が持つてきてくれた100年ぐらゐの椿の木がありました。椿はものすごく硬くて、髓鞘炎を患つていたので彫るのが大変で「楡にしておけば柔らかくて、もう少し早く仕事ができますよな」と思いながら椿を彫つて人形をつくりました。引き渡す前の晩に仕事場で「春日雛」と箱書きをしていた時に「あ、これに木をつければ、椿の日の雛になるな」と思っていました。椿の木は人によつては嫌いな人がいるので、人形をお渡しするときに、「この人形は、100年ぐらゐの椿の木を使つて彫らせていただきました」と話をすると「実は私の姪が先週生まれたんなんですが、その子が椿ちゃんという名前になつたんですよ」とおっしゃるんですね。その時、神様ついでと思ひ鳥肌がたちました。「ああ、だから椿の木で彫らされたんだ」と思いました。



そういうことはモノをつくつていくとよくあります。「このために来たのか」という事に気づかされたことが何度もあります。その土地の力を借りることも大切ですが、例えば、仕事を依頼してくれたオーナーが「こういうものを作つて欲しい」と言うんですが、私は必ず「現場を見せて欲しい」と言います。別にオカルト的に



螢火



ものが見れるわけではないんですが、行くとなんとなく分かるんですよ。「ここには、これが大事だ」というものじゃないとだめなんだ」と思つていると、「実は、私の家には代々伝わっているものがあつて」というものが出てきて、びつたり会うことがあります。そういう力は「エトールな受信体にならなければできないものです。欲が出て、自分が有名になりたい、お金が欲しい、仕事欲が欲しいというものではなく、本当に何が必要かを考えて、「この人が、この一族が末代まで幸せになりますように」とか子供のものを作るときは、「自分の子供だけでなく、周りの子供の為にも事故にあわないように、病気にならないように」という想いをもって作っています。すべての人を助けることはできないですが、一人でも多くと少しでもそういう思いをもつてつくるうとしていくと、教えてくれるんですよ。「今何をつくつていくの?」「ここにこういう人がいるよ」「こういうものがあるよ」と教えられるんです。行きたくないなと思つていると、行かざるをえなくなつたり、逆に行かなくちゃいけないのに、行かなくてもよくなつたり。そこに行くことと実際に会おうことができるんです。朝起きて夜寝る前までにそういうことを考えてやっています。僕の仕事、天職はモノを生み出す、人形を作ることです。

その後も、博多の人形師の話や現在製作中の人形の話、思い続けられ夢は叶うといった話など、ものづくりの視点から色々な話をしていただきました。(中山 肇)

## 第19回 NPO博多の風フォーラム 開催のご案内

■開催日時 平成19年10月28日(日) 開場12:30/開演13:00 ■開催場所 明治安田生命ホール(明治安田生命ビル8階)

### 開催内容

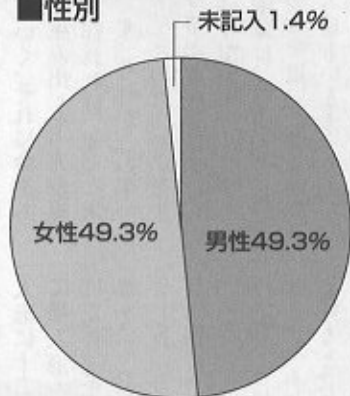
- 第一部 第七回「祭童子あつまれ」楽文コンテスト 表彰式
- 第二部 講演 講師:戸谷弘一氏(福岡県警察本部 警務部 警務課管理官)  
演題:博多よもやま噺



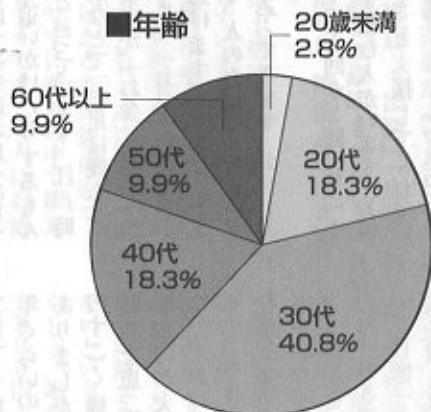
# 第18回NPO博多の風フォーラムアンケートより

(回答71名)

## ■性別



## ■年齢



### ●本日の感想をおきかせください

- 映像を駆使して、分かりやすかったと思います。
- 探訪!!追山コースに外国の方の参加を呼びかけてはいかがでしょうか?
- 分かりやすい活動報告でした。これからも地域に根ざした活動を期待します。
- 以前から信喬さんの人形のファンです。博多人形師と思っていたら、彫刻もされるのに驚きました。映像の人形もどれも素晴らしく、本物を見たいと思いました。人形師の心意気

- を感じました。
- 「思い続ければ夢はかなう」…いい言葉を聞かせていただきました。
- とても人生観が変わりそうな、ためになる話でした。
- 「人は何の為に生まれてきたのか」「人の為に何かをすれば人生が変わる」など、考えさせられる話で、とてもためになりました
- 人形を作っている時の気持ち、とても伝わっ

てきました。

○山笠に出させていただいているのですが、その飾り山などを製作されている中村氏の話が聞けて良かったです。また非常に為になる話を聞くことができました。

○人形師と聞くととても厳しい感じがしてましたが、分かりやすく、とても大変な仕事と思いました。

### ●NPO博多の風の活動に対して要望などございましたらお聞かせください

- 心地よい風を吹かせ続けてください。
- もっと広げてもらいたい。
- 若い人も参加していてとても感じが良かったです。自分の為、子供に伝えていけるようにしたいと思いました。

### ●今後のフォーラムにおいて希望されるテーマ

- 元気になれるものだったら何でもいいです。
- 博多の文化・博多の歴史・山笠の歴史
- スポーツ選手



理事長から参加者の皆様にご挨拶



東長寺前には2番目の清道があります。(高さ16.1mの福岡大仏があります)



山留めは、追山のスタート直前の緊張する場所



承天寺前には3番目の清道があります



太鼓の音と共に走り出した山笠は一気に清道を目指します

## 第六回

## 博多祇園山笠

## 追山コース探訪が開催!

●平成19年6月3日

博多祇園山笠の素晴らしさ、さらには博多の町に残る色々な歴史の流れに多くの方に触れてもらおうと、参加者を広く一般公募し、「NPO博多の風」の仲間たちの道案内で「探訪!博多祇園山笠追い山コース」を開催しました

今年で第6回をむかえたコース探訪は、曇り空で探訪には丁度良い天気でした。当番法被に身を包んだ博多の風の仲間たちが追山コースを案内。山笠の昇手ならではの話や、博多の町の歴史などの話などが飛び出しました。今回は、承天寺の普段はなかなか入れ

ない所まで入らせていただき、素晴らしい石庭や川上音二郎の墓、饅頭蕎麦発祥乃地の石碑などを見学することができました。なお、地元テレビ局スタッフや新聞社の記者達も参加者のみなさんと同行。博多の町をみ





12 西町筋の直線を抜けると「追い山ならし」の廻り止めです

追山笠の廻り止めです



9 急なくだり坂では山足がつかます



6 承天寺の中にはこんな石庭があります



13 廻り止めまでを一緒に走りましょう



10 浜口公園で休憩です



7 川上音二郎の墓もあります



15 お茶と冷たいぜんざいをどうぞ



14 皆さんお疲れ様でした。今日はいかがでしたか？



11 ござ通り先の曲がり角は鼻取りの腕の見せ所です



8 東町筋にはお寺がたくさんあります。聖福寺には「博多べい」もあります

## 参加者の皆様より

● 清道が3つあることを知らなかった。普段は車ばかりでなかなか歩くことはなく、実際に歩いてみると長かったです。昇手の人はこの距離を担いで走るのはいすこいと思えました。

● 新聞を見て応募しました。追山に興味があつて、コースは知っていましたが、途中に狭い路地なども多く、よくぶつからずに行くものだと思つて歩いてみると良く分かりました。万歩計で計っていたら今日1日で1200歩歩いていましたよ。

● 去年参加して面白かったので、今年は友人を誘ってきました。山笠はテレビで見ると、意外と距離が長く感じました。参加している人達の案内が良かったです。承天寺の中が見れたのが貴重な体験でした。

### 世話人からの一言



平成14年に始めた「探訪!!博多祇園山笠追山コース」も今年で第6回を迎え、6月3日(日)に開催いたしました。前日の天気予報では当日の天候が心配でしたが、なんとか雨も降らず実施することができました。

参加者150名を募集しましたが、少しでも多くの方に山笠と博多の魅力にふれていただこうと、約200名の方を10グループに分けて案内しました。参加された方々からは、笑顔と共に「山笠の厳しさとともに、見どころも分かった。」「昇手の方ならではの説明が臨場感があって良かった。」などの感想をいただき、励みになりました。

来年以降もっと工夫を加え、少しでも探訪事業を改善していきたいと思つています。

探訪事業世話人 中川原 謙二

● 日ごろは車を使つてばかりいるので、旧町名などを書いた石碑などにも気が付かなかつた。山笠は見に来た事はありませんでしたが、意外と距離があるように感じました。話にも面白かつたし、博多の文化に触れた気がしました。

● 知り合いが山笠に参加していて、去年の追山笠を見に来ました。最初と最後までいしか見れなかつたんですが、参加してみてもどういふ所を通つていけるのか良く分かりました。いろんな見所を教えられたので、今年の山笠が楽しみです。

● 新聞を見て友人を誘つて申し込みました。大博通りから1本入った所にこんな静かな町並みがあり、お寺なども多くて驚きました。テレビなどでは分からない、博多の町の歴史を感じました。



# 来風人



## 会員紹介

### 福田一男さん

NPO博多の風 事務局長

■職業:会社員

■土居流 大乗寺前町

「あなたにとって、山笠の魅力は何ですか?」これはマスコミヤ、私個人に関心を持っていただいた方からよく聞かれる質問です。私は、その度に「山笠から勇氣・元氣・やる気をもらっており、その事が魅力です。」と返ってきました。そう言い切ると私の山笠人生がこれまで順風満帆だったように聞こえるかもしれませんが、良いときはばかりではなく、失敗をやらかした時などに先輩から叱咤され、落ち込んで何日も立ち直れなかった事も幾度もありました。今だって落ち込む事もあります。しかし、辞めずにおもうと思つたことはあつてもやめませんでした。落ち込む度に、「なぜ?なぜ?なぜ?」の自問自答を繰り返

り返し、最後は「山笠をやりたい」という回答を導きだしてきました。といつても実際は、落ち込む暇も無いくらい「日々密度の濃い山笠人生である」とも事実ですが、山笠をやり始めて、まだ17年にしかならず、博多に生まれ育ち子供の頃から何十年も山笠をやっている人から見れば、まだまだの存在でしかないですが、山笠に関わりをもたせていただいていること自体が、魅力そのものであると考えていますし、人生の大きな枠組みとなつていきます。駆け出しの頃はともかくとして、今では多くの山笠仲間がそうであるように「1年365日、山笠の事を考えない日はない」と言つても決して過言ではありません。毎

週土曜日の山笠仲間との会合は二週間の基本形として二年間スケジュール化されており、すっかり生活のリズムの中に山笠が溶け込んでしまつていきます。

私が生まれたのは長崎県の松浦市で、父の転勤などで佐世保や田川などで育ちました。山笠を実際に見たのは32、33歳頃で、同じ会社の先輩で山笠に出ている人がいたので「自分も出させてください」と頼んだのですが「まだまだ」といつてなかなか出させてもらえませんでした。そしてついに土居流の大乗寺前町から参加させていただくようになったのは38歳の時でしたから遅いデビューでしたが、その時は嬉しくて、嬉しくつてもう、無我夢中でした。その後の沖繩勤務を経て、再び福岡へ戻つてきた後、年間を通じて町内に貢献するにはどうしたらいいだろうかという事を考えながら、仲間達と色々実践していききました。山笠の人間関係って並大抵のものではないですよ。年間を通じて行動を共にしていきながら、一緒に大事をやり遂げる仲間ですから、例えるならば大袈裟ですが使命感に燃えている幕末の志士のようなイメージですかね。

若手頭になる頃には、しっかりとした組織を作る事を意識して動いていきました。町内新聞などを作って皆で情報共有をはかたり、会社の会議でやるようにポストイットを使って、現在の問題点の洗い出しなどをやつて、それについての解決策をみんな考えていったりしました。町内の清掃活動は、その良い例で、「山笠に出させてもらっているという感謝の気持ちを持ちつつけよう」と平成9年から続けて

います。余談ですが、掃除をしている時などに、住民の方々から声をかけてもらえると、嬉しくなつてつい握つている筈にも力が入り、町内に二層の愛着が出てきます。そうなるべくとも、もつと町内の為に頑張ろうと思うようになります。

そういう私ですが、山笠本番では、昇き手として櫛田入りをした事はありません。縁がなかったとしか言いようがありません。「台上がり」や「櫛田入り」は花形ですし若い人達が憧れるのは当然です。私も正直言つて憧れました。だからこそ、今年こそはと念かけて精進したにも拘らず、櫛田入りの選に漏れた若手や、たとえやりたくても出来ない若手には、私にしか言えないことばで「俺もしてないよ」と声が掛けられます。山笠には人それぞれに係わりあひ方があるものです。だからこそ、こういった言葉をかけ若手に勇氣付けできることは、幸せなことだと思います。

人を大切にしたいと思つています。世の中に悪い人はいない。がんばれない人はいない。チャンスがない人はいない。要は考え方次第だと思つています。そういう人達を引っ張つていきながら、「みんなが喜ぶ事を自分の喜びにしたい」とある意味それが私の信条です。

私の山笠への取り組み姿勢は家族ばかりではなく、今や勤務先の先輩や後輩、お取引先やお客様をも巻き込んだ認識状態(あきらめられていく)となつていて、毎年大手を振つて(勿論回りへの配慮や謙虚さは忘れずに)仲間と一緒に山笠ができています。特に今年は大乗寺前町としては、約50年ぶりで総務を出すことができましたが、「番山笠という事も相まって、お蔭さまで、年初から多くの応援メッセージとともにご祝儀までいただき、町内への寄与もできました。また、山笠期間中は、沿道から、棧敷席から、或いは詰所へと毎日途切れることなく応援していただきました。実にありがたいことで、関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。紙面をお借りして、改めて「ありがとうございます」のお礼を申し述べたいと思つています。このことは私にとって無類の大きな幸せと言えますし、町内構成員や応援をしてくださる方々に応える為にも、いつまでも山笠を思う気持ちは半端では居られないと感じています。今年一番山笠の当番町を経験させていただいた今、そういう姿勢を持ち続け「組織を見直し」「人材の開発と人材の育成」を実行し、町内をリードし次に繋げる事が、総代としての責務であると実感し、将来にむけて再考している今日この頃です。

## 第7回 祭り童子集まれ!! 楽文コンテスト 優秀作品

10月28日フォーラムにて発表

今年で7回目となる楽文コンテストですが福岡市内の幅広い小中学校から多数の応募をいただきました。「博多祇園山笠振興会賞」「毎日新聞社賞」「NTTドコモ九州賞」「日本アイ・ピー・エム賞」「NPO博多の風賞」の各賞の優秀作品の選考をさせていただいております。次回のフォーラムでは、会場で受賞者の発表と優秀作品の発表をさせていただきますので、多数の皆様のご来場をお待ちしております。



福岡交通センタービル6階の紀伊國屋書店福岡本店の特設会場にて4月11日に発売された「大庭宗一の自分頑張れ。」の刊行を記念したサイン会が開催されました。理事長の熱い一言が添えられました。紀伊國屋福岡本店の方のご協力、ラジオなどを聞いて参加したりスナーの方、またNPO博多の風をはじめ山笠関係者様のお陰で、多数の来場があり、盛り上がったサイン会となりました。今後ともこのような企画を検討していきたいと思っております。

NPO博多の風理事長の書籍  
「大庭宗一の自分頑張れ。」  
出版記念サイン会を開催  
■平成19年5月19日(土) 16時から



## NPO博多の風 賛助会員募集のお知らせ

我々「NPO博多の風」の主旨をご理解いただき、活動に賛同いただける方を広く募集しています。お知り合いの方をご紹介ください。

●お問合せは「NPO博多の風」事務局(担当・福田)  
TEL: 090-1349-5982 FAX: 092-263-7188



<http://hakatanokaze.jp>  
E-Mail [npokaze@juno.ocn.ne.jp](mailto:npokaze@juno.ocn.ne.jp)

## 第11回はかたの町 クリーン作戦実施

平成19年5月20日(日) 8:30から心地よい晴れ空の下、NPO博多の風理事、幹事、有志ら約80名にて第11回博多のまちクリーン作戦を実施しました。

各団体、ボランティア等の博多のまちにおける清掃活動が活発に行われるようになったこともあり、活動開始時期に比べ落ちているごみは少なくなったように思えます。

「汚い街では犯罪が多くなる傾向にあり、常に綺麗にする気持ちが防犯につながる」という理事長の言葉を常に思い、今後も地道に清掃活動を続けていきます

## 第12回 はかたの町クリーン作戦

●平成19年11月18日(日) 8:30集合/11:30解散予定  
●集合場所:冷泉公園南側の角

## 編集後記

この「風人」の編集を担当させていただいたて早5年。今回で第16号までになりましたが、最初は手探りでスタートで、様々なアドバイスを受けながら試行錯誤で続けてきました。もちろん自分ひとりでやっていくわけでもなく、協力していただける多くの皆様のお陰で作成することができています。この場をかりてお礼を申し上げます。信喬さんの言葉の中に「だれもが一番をもっている。人のために役にたつものを何か持っている」という言葉が印象的でした。最近忙しさを理由に自分の事しかできていない自分自身を反省しました。人に甘えてばかりでなく、ちよつとした事でも何かしら人の為に来ることを心がけて行きたいものです。

(中山 肇)



## NPO博多の風のあゆみ

平成 10年9月	任意団体「博多の風」設立 代表:大庭宗一
同年10月	第1回博多の風フォーラム開催 講師:松本龍氏(衆議院議員)
平成 11年4月	第2回博多の風フォーラム開催 講師:倉田 眞氏(毎日新聞編集局長)
同年10月	第3回博多の風フォーラム開催 講師:沢田幸二氏(九州朝日放送アナウンサー)
平成 12年4月	第4回博多の風フォーラム開催 講師:坂口卓司氏(RKB毎日放送アナウンサー)
同年5月	大庭宗一と博多の風の仲間たち監修 「山笠の風」出版
同年5月	同出版記念パーティ開催 NPO(特定非営利活動法人)認証取得 理事長:大庭宗一
同年6月	NPO博多の風として登記
同年10月	第5回NPO博多の風フォーラム開催 講師:緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
同年11月	山笠交流会館建設提言書、福岡市長へ提出
平成 13年4月	第6回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤豊彦氏(福岡銀行相談役)
同年5月	作文コンクール 「第1回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(5/1~7/31)
同年7月	「NPO博多の風フォーラム」 福岡県21世紀記念事業認証取得
同年10月	福岡県21世紀記念事業 第7回NPO博多の風フォーラム開催 講師:後藤久義氏(博多祇園山笠振興会会長) 永吉和幸氏(毎日新聞社福岡総局長) 緒方邦博氏(プランニング秀巧社社長)
平成 14年4月	第8回NPO博多の風フォーラム開催 講師:安達一成氏(毎日新聞社記者)
同年4月	「NPO博多の風ホームページ」開設
同年5月	第1回 クリーン作戦開催
同年6月	「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催
同年6月	作文コンクール 「第2回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/2)
同年10月	「NPO博多の風広報誌:風人」発行
同年11月	第9回NPO博多の風フォーラム開催 講師:高橋慶彦氏(元プロ野球広島東洋カープ)
平成 15年4月	第2回 クリーン作戦開催 第10回NPO博多の風フォーラム開催 講師:永守良孝氏(RKB毎日放送株式会社 取締役)
同年5月	第3回!! クリーン作戦開催
同年6月	「第2回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第3回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/2)
同年11月	第11回NPO博多の風フォーラム開催 講師:奥田智子氏(九州朝日放送アナウンサー)
平成 16年4月	第4回 クリーン作戦開催 第12回NPO博多の風フォーラム開催 講師:ウー.C.リー氏(在福アメリカ領事館首席領事)
同年5月	第5回 はかたの町グリーン作戦(雨天中止)
同年6月	「第3回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 作文コンクール 「第4回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/2)
同年10月	第13回NPO博多の風フォーラム開催 講師:富永倫子氏(RKB毎日放送アナウンサー)
平成 17年4月	第6回はかたの町グリーン作戦開催 第14回NPO博多の風フォーラム開催 講師:松田浩氏(アビス福岡監督)
同年5月	第7回はかたの町グリーン作戦開催
同年6月	「第4回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第5回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」実施(6/1~9/1)
同年10月	第15回NPO博多の風フォーラム開催 講師:大庭宗一(NPO博多の風理事長)
平成 18年4月	第8回はかたの町グリーン作戦開催 第16回NPO博多の風フォーラム開催 講師:平田大(南島詩人)
同年5月	第9回はかたの町グリーン作戦開催
同年6月	「第5回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第6回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」
同年10月	第17回NPO博多の風フォーラム開催 講師:逸見明正
平成 19年4月	第10回はかたの町グリーン作戦開催 第18回NPO博多の風フォーラム開催 講師:中村信喬氏(人形師)
同年5月	第11回はかたの町グリーン作戦開催
同年6月	「第6回 探訪!!博多祇園山笠 追山コース」開催 「第7回 祭り童子集まれ!楽文コンテスト」

NPO特定非営利活動法人

# 博多の風

〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16-302

FAX 092-263-7188

E-Mail npokaze@juno.ocn.ne.jp

URL http://hakanokaze.jp

## NPO博多の風事業概要

- 博多の町の伝統文化を次世代に引き継ぐ啓発事業
- 「博多の風フォーラム」の定期開催
- 博多の町の地域振興活動  
「探訪!!博多祇園山笠 追山コース」事業
- 博多の町の地域清掃活動「グリーン作戦」事業
- 「祭り童子集れ!楽文コンテスト」事業
- 山笠山台の技術継承活動事業
- 博多祇園山笠振興に関する活性化事業のお手伝い
- 青少年スポーツ振興に関する支援・協力事業

題字:新井光守

